

看護職者の関係開始スキルと個人の内的属性との関係

横田恵子¹⁾，富田大介²⁾，林稚佳子³⁾，高間静子¹⁾

- 1) 富山医科薬科大学医学部看護学科
- 2) 黒部市民病院
- 3) 国立療養所富山病院附属看護学校

要 旨

看護職者の関係開始スキルと個人の内的属性との関係について調べた。内的属性を自我同一性、自己没入、共感的配慮、孤独感、対人不安とした。調査対象は2つの総合病院に就労する看護職者332名とした。測定用具には和田の社会的スキル尺度の下位尺度である関係開始スキル尺度、谷の多次元自我同一性尺度、坂本の自己没入尺度、ディヴィスの対人的反応性指標の下位尺度である共感的配慮尺度、落合の孤独感の類型判別尺度、林・小川の対人不安意識尺度を用いた。その結果、対人不安と関係開始スキルとは負の有意な相関が認められた。また自己没入と関係開始スキルとは正の有意な相関を示した。自我同一性においては関係開始スキルと年齢、経験年数、兄弟数、友人数別で有意な正の相関がみられた。さらに共感的配慮と関係開始スキルとは友人数別において有意な正の相関を示した。孤独感と関係開始スキルとは職位、友人数別で有意な相関がみられた。また、関係開始スキルに最も影響する個人の内的属性は対人不安であり、次に自己没入であった。以上のことから看護職者の内的属性は関係開始スキルに影響を与えていることが示唆された。

キーワード

関係開始スキル，自我同一性，自己没入，孤独感，対人不安

序

看護活動では、患者—看護者間の人間関係においてコミュニケーション能力が重要となり、患者を知るには相手との関係をスムーズに行なえることが必要である。また看護職の同僚及び他職者(医師、薬剤師、栄養士など)との結びつきは看護活動をスムーズに運んでくれる。相手に対する好意的な印象は好意的な対人反応に結びつき、否定的な印象は否定的な反応につながることが多い。つまり相手と良好な人間関係を築くためには、相手によい印象を与え、見ず知らずの人に自分から話しかけ、自分を売り込むことができ、新しい関

係を作るなど自分の意思・欲求などを開示して警戒を与えずスムーズに人との関係を開始するスキルである関係開始スキルが必要になってくる。

ブーメスターらは、対人有能性として関係開始、ネガティブな主張、自己開示、情緒的サポート、衝突回避等をあげている。また和田は人間関係の社会的スキルとして関係維持、関係開始、自己主張等をあげている。和田によれば、「関係開始スキルとノンバーバル行動やセルフモニタリングと正の相関を示し、孤独感と負の相関がみられた」¹⁾と報告している。また、「恋人がいないものよりいるものの方が関係開始に優れている」²⁾とも報告している。

関係開始スキルに影響する個人の属性について文献を検討してみると自我同一性、自己没入、共感的配慮、孤独感、対人不安等が考えられる。関係開始には特定の他者に対して自分自身に関する情報を言語を介して伝える行為（自己開示）と意図的に本人が情報を曲げて自分に都合よく、あるいは世間的に格好よく伝える自己表出とがある³⁾。そのためには自分が自己を確認する、つまり自我同一性（アイデンティティ）が重要となってくる。また、「自我同一性はこれこそ自分だという自分の独自性の実感であるが、それは自分らしいと感じられる自分が他者—社会からも認められ、自分のあり方と他者からの期待や要請が一致したときに経験される」⁴⁾とされていることから、他者から認められて自我同一性を確立した人は、対人関係における関係開始もスムーズに行うことができるものと考えられる。

坂本は「自己没入の強い人は抑うつになりやすく、抑うつ状態が続くと自分に関して深く考え込んで内にもってしまふ。」⁵⁾と述べている。また抑うつになると気分がめいってふさぎこんでしまい、話すのが億劫になり人と会うのを避け引きこもってしまう。抑うつ状態はネガティブな自己イメージを受け入れたりそれを維持させたりするように働く⁶⁾。これらのことから自己没入の強い人は人との関係開始がうまくできない可能性が考えられる。

山岸は「社会的スキルは対人場面において効果的に相手に反応するために用いられる言語的、非言語的な行動である。具体的なスキルを適切に発揮するためには相手に共感できることが必要となってくる。」⁷⁾と述べている。共感的な人は他者と交流を楽しみ、自分自身の問題を大げさに話して注意をひくようなことはせず、他者の感情に関心を持つことで感謝されることを喜び、他者とよく知り合いになることを楽しみにする人である⁸⁾。逆に共感的能力の低い人は、柔軟性に向け衝動的傾向があり、自己中心的で友人が少なく内向的で疑い深い人である⁹⁾。したがって共感的能力の高い人のほうが自分から話しかけ、人間関係を築いていこうとすることから関係開始スキルは高いと考えられる。

対人関係を避けたり、会話をしても長続きしない人は孤独である¹⁰⁾といわれている。孤独を抱くと人はどう見られているかに敏感になり、さらに孤独が強くなっていく¹¹⁾。孤独を感じる人では、人に特別な印象を与えたいと強く思うため消極的であるという印象を与えたり好ましくないと見られたりするのではないかとすることに過剰に反応してしまう¹¹⁾。吉森等は、孤独感の強い人の特徴として「①自己開示が少なく、他者に自己開示させることが少ない。そのため円滑な人間関係を妨げる。②他者との相互作用の間、相手にあまり興味を示さない。相手に質問したり、注意を向けることが少なく、ひとつの話題で会話を続けることも少ない。③自己主張が弱く、消極的である。④対人関係における失敗を努力の欠如や方略のまずさに帰属せず、自分の社会的能力の欠如に帰属する。そして簡単にあきらめてしまう。⑤他者からは自尊心が低く、他者に興味を示さず理解しにくい人とみなされている。」¹²⁾などをあげている。また Jones らは「孤独な人ほど相手に言及する陳述、相手の以前の陳述への応答、相手への質問が少ない、すなわち会話のソーシャルスキルにかけられる。」¹³⁾とも報告している。また Spitzberg らは「自己評定の有能性と孤独感との間に負の相関を見出し、孤独な人は対人有能性にかけ、また効果的にしかも適切に他者と相互作用する能力に欠ける。」¹⁴⁾と報告している。つまり孤独感が強いものほどソーシャルスキルに欠け他者と効果的な相互作用を築くことができないと考えられる。

Schienker らは「対人不安とは現実のあるいは想像上の対人場面において他者からの評価に直面したり、もしくはそれを予測したりすることから生じる不安状態である。」¹⁵⁾と述べている。対人不安の強い人は人に会うことを回避するために、人とうまく話をするができなくなる。内気で器用に振舞うことができないために人とのかかわりを回避することになる¹⁶⁾。さらに対人不安の強い人は対人関係を実際に避け、非親和的な振る舞いをすることが多く、他人との相互関係を取れなくなり外向性が低いとも考えられる¹⁷⁾。Leary もまた「他人の非難や批評に対して過度に気にする人はそうでない人に比べて、より多くの対人不安を

経験する。」¹⁸⁾ということを経験している。Markusは「対人不安の強い人は自分に自信がもてない人であり、自分の予測した事態になるといっそう自分のおかれた状況にこだわってしまい、それによってその人の対人的問題をさらに悪化することになる。」¹⁹⁾と述べている。これらの報告を総合すると個人の対人不安は関係開始スキルに影響することが推定できる。

以上のことから、次のような仮説を設定した。

1. 自我同一性は関係開始スキルに影響する。
2. 自己没入は関係開始スキルに影響する。
3. 共感的配慮は関係開始スキルに影響する。
4. 孤独感は関係開始スキルに影響する。
5. 対人不安は関係開始スキルに影響する。

研究方法

1. 調査対象

母集団は2つの公立総合病院に勤務する看護職者から無作為抽出した350名とした。

2. 調査内容

本研究では関係開始スキルを従属変数とし、自我同一性・自己没入・共感的配慮・孤独感・対人不安を独立変数とし、これら独立変数についての測定結果と関係開始スキルとの関係を調べた。また、性・年齢・経験年数・職階・看護教育背景・兄弟姉妹・友人数等の人口学的背景も調査した。

3. 測定用具

関係開始スキルの測定には和田の社会的スキル尺度の下位尺度である関係開始スキル尺度²⁵⁾を用いた。これは7項目で構成され、5件法で評定する尺度である。自我同一性は谷の多次元自我同一性尺度¹⁹⁾を用いた。これは20項目で構成され、7件法で評定する尺度である。自己没入は坂本の作成した自己没入尺度²¹⁾を用いた。これは11項目で構成され、5件法で評定する尺度である。さらに共感的配慮はディヴィスの対人的反応性指標の下位尺度である共感的配慮尺度²²⁾を用いた。これは7項目で構成され、5件法で評定する尺度である。孤独感は落合の孤独感の類型判別尺度²³⁾を用いた。これは16項目で構成され、5件法で評定する尺度である。対人不安は林・小川の対人不安意識尺

度²⁴⁾を用いた。これは66項目で構成され、7件法で評定する尺度である。いずれの尺度も信頼性・妥当性が検証されたものである。

4. データの統計処理

偏相関係数、標準偏回帰係数、信頼性係数 α の算出には統計ソフトSPSSを使用した。

5. 調査方法

調査対象である病院の看護部長の許可を受けて、看護師への配布を依頼した。倫理的配慮として調査は無記名とし、データは統計的に処理を行うため、個人のプライバシーは漏れることはない旨の説明書を添付し、この調査の主旨に承諾できる方についてのみ調査を依頼した。調査期間は2001年7月20日～7月30日までとし、留め置き法をとった。

結 果

1. 調査表の回収率と対象者の属性

調査対象者350名のうち、有効回答数は332名(有効回答率94.9%)であった。対象者の人口学的背景は表1に示した。

表1 対象者の背景 n=332

属 性	群	人数	%
性 別	男 性	11	3.3
	女 性	321	96.7
年 齢	24歳以下	30	9.1
	25～34歳	89	26.8
	35～44歳	98	29.5
	45歳以上	115	34.6
経験年数	3年以下	37	11.1
	4～6年	34	10.3
	7～9年	21	6.3
	10～19年	90	27.1
	20年以上	150	45.2
職 階	看護師長	13	3.9
	副師長・主任	118	35.5
	看護 師	201	60.6
学 歴	大 学	7	2.1
	短 大	55	16.6
	専 修 学 校	270	81.3
兄 弟 数	自分のみ	25	7.5
	1 人	95	28.6
	2 人	99	29.8
	3 人 以上	113	34.1
友 人 数	無	25	7.5
	1 人	31	9.4
	2～3人	149	44.9
	4～5人	94	28.3
	6人以上	33	9.9

2. 本研究で使用した尺度の信頼性

本研究において使用した尺度のCronbachの α を算出し信頼性を確認した。多次元自我同一性尺度は0.918, 自己没入尺度0.899, 共感的配慮尺度0.707, 孤独感の類型判別尺度0.495, 対人不安意識尺度0.975, 関係開始スキル尺度0.894であった。

3. 関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表2には関係開始スキルと個人の内的属性との関係を示した。看護職者の関係開始スキルと自己没入との間に正の有意な相関があり, 対人不安との間に負の有意な相関を示した。しかし自我同一性, 共感的配慮, 孤独感との間に有意な相関はみられなかった。次に関係開始スキルに最も影響する個人の内的属性を標準偏回帰係数でみると対人不安であり, 続いて自己没入の順で影響していた。

表2 関係開始スキルと内的属性との関係
n=332

属性	偏相関係数	標準偏回帰係数
自我同一性	0.054	0.065
自己没入	0.183 **	0.204 **
共感的配慮	0.042	0.041
孤独感	-0.036	-0.035
対人不安	-0.254 ***	-0.346 ***

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

4. 性別にみた関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表3には性別にみた関係開始スキルと個人の属性との関係, ならびに個人の属性である自我同一性, 自己没入, 共感的配慮, 孤独感, 対人不安等のどの属性が最も関係開始スキルに影響しているかについて示した。自己没入と関係開始スキルと

表3 性別にみた個人の内的属性と関係開始スキルとの関係
n=332

属性	男性群		女性群	
	PC	SP	PC	SP
自我同一性	0.084	0.068	0.027	0.032
自己没入	0.735	0.513	0.198 ***	0.222 ***
共感的配慮	0.662	0.588	0.015	0.014
孤独感	0.193	0.072	-0.045	-0.044
対人不安	-0.537	-0.600	-0.265 ***	-0.358 ***

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

PC: 偏相関係数(Partial Correlation coefficient)

SP: 標準偏回帰係数(Standard Partial regression)

の関係を見ると, 女性群において有意水準0.1%の正の相関があった。また対人不安との関係を見ると有意水準0.1%の負の相関があった。しかし自我同一性, 共感的配慮, 孤独感は関係開始スキルとは相関がみられなかった。次に関係開始スキルに最も影響している属性についてみると, 女性群では対人不安, 自己没入の順で影響していた。

5. 年齢別にみた関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表4には年齢区分を24歳以下, 25~34歳, 35~44歳, 45歳以上群の4群に分けて関係開始スキルと個人の属性との関係, ならびに個人の属性である5つのうちのどの属性が最も関係開始スキルに影響しているかについて示した。自我同一性と関係開始スキルとの関係を見ると45歳以上群で有意水準1%の正の相関が認められた。また自己没入との間でも有意水準5%の正の相関があった。対人不安と関係開始スキルとの関係を見ると24歳以下群で有意水準5%の負の相関を示し, 35~44歳群で有意水準1%の負の相関がみられた。次に関係開始スキルに最も影響している属性をみると45歳以上群では自我同一性, 自己没入の順で影響し

表4 年齢別にみた個人の内的属性と関係開始スキルとの関係
n=332

属性	24歳以下群		25~34歳群		35~44歳群		45歳以上群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自我同一性	0.154	0.160	-0.018	-0.023	-0.114	-0.140	0.300 **	0.360 **
自己没入	0.286	0.243	0.064	0.074	0.153	0.168	0.257 *	0.272 *
共感的配慮	0.176	0.117	-0.028	-0.029	0.126	0.124	0.139	0.134
孤独感	-0.123	-0.084	-0.144	-0.149	-0.064	-0.062	0.201	0.203
対人不安	-0.510 *	-0.700 *	-0.171	-0.235	-0.285 **	-0.383 **	-0.178	-0.224

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

PC: 偏相関係数(Partial Correlation coefficient)

SP: 標準偏回帰係数(Standard Partial regression)

ていた。

6. 経験年数別にみた関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表5には看護職経験年数を3年以下, 4~6年, 7~9年, 10~19年, 20年以上の5群に分けて関係開始スキルと個人の属性との関係, ならびに個人の属性である5つのうちのどの属性が最も関係開始スキルに影響しているかについて示した。自我同一性と関係開始スキルとの関係をみると経験20年以上群において有意水準1%の正の相関があった。また自己没入との間にも有意水準1%で正の有意な相関がみられた。さらに対人不安との間には3年以下群, 10~19年群, 20年以上群において有意水準5%で負の有意な相関を示した。しかし共感的配慮, 孤独感は関係開始スキルとは相関がみられなかった。経験の長い20年以上群の関係開始スキルに最も影響している属性をみると, 自我同一性, 自己没入, 対人不安の順で影響していた。

7. 職階別にみた関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表6には職階を看護師長, 副看護師長・主任,

看護師の3群に分けて関係開始スキルと個人の属性との関係, ならびに個人の属性である5つのうちのどの属性が最も関係開始スキルに影響しているかを示した。自己没入と関係開始スキルとの関係をみると副師長・主任群で有意水準1%の正の相関が認められた。また孤独感との間にも有意水準5%の正の相関を示した。対人不安と関係開始スキルとの関係をみると副師長・主任群で有意水準1%の負の相関があり, 看護師群で有意水準0.1%の負の相関があった。次に関係開始スキルに最も影響している属性をみると副師長・主任群では対人不安, 自己没入, 孤独感の順で影響していた。

8. 看護教育背景別にみた関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表7には看護教育背景を大学卒, 短大卒, 専門学校卒の3群に分けて関係開始スキルと個人の属性との関係, ならびに個人の属性である5つのうちのどの属性が最も関係開始スキルに影響しているかを示した。自己没入と関係開始スキルとの関係をみると専修学校群で有意水準1%の正の相関

表5 経験年数別にみた個人の内的属性と関係開始スキルとの関係

n=332

属性	3年以下群		4~6年群		7~9年群		10~19年群		20年以上群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自我同一性	0.204	0.208	-0.045	-0.064	-0.142	-0.155	-0.103	-0.122	0.240**	0.294**
自己没入	0.306	0.288	0.110	0.138	-0.153	-0.186	0.178	0.200	0.230**	0.247**
共感的配慮	0.193	0.137	-0.093	-0.107	0.115	0.101	0.028	0.028	0.142	0.140
孤独感	-0.131	-0.099	-0.221	-0.236	-0.168	-0.163	-0.051	-0.050	0.174	0.179
対人不安	-0.467*	-0.621*	-0.157	-0.232	-0.371	-0.419	-0.268*	-0.359*	-0.188*	-0.242*

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

PC:偏相関係数(Partial Correlation coefficient)

SP:標準偏回帰係数(Standard Partial regression)

表6 職階別にみた個人の内的属性と関係開始スキルとの関係

n=332

属性	看護師長群		副師長・主任群		看護師群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自我同一性	0.612	0.765	0.163	0.191	-0.072	-0.087
自己没入	0.297	0.297	0.272**	0.290**	0.129	0.144
共感的配慮	-0.358	-0.270	0.131	0.126	0.039	0.038
孤独感	-0.435	-0.397	0.228*	0.228*	-0.093	-0.089
対人不安	0.014	0.014	-0.264**	-0.338**	-0.300***	-0.414***

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

PC:偏相関係数(Partial Correlation coefficient)

SP:標準偏回帰係数(Standard Partial regression)

があった。また対人不安との間でも有意水準0.1%で負の相関を示した。次に関係開始スキルに最も影響している属性についてみると専修学校群では対人不安、自己没入の順で影響していた。

9. 兄弟姉妹数別にみた関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表8には兄弟姉妹数を無、1人、2人、3人以上の4群に分けて関係開始スキルと個人の属性との関係、ならびに個人の属性である5つのうちのどの属性が最も関係開始スキルに影響しているかについて示した。自我同一性と関係開始スキルとの関係をみると3人以上群で有意水準5%の正の相関があった。自己没入との関係をみると1人群で有意水準1%の正の相関がみられた。また対人不安との関係をみると1人群、2人群において有意水準0.1%の負の相関がみられた。次に関係開始スキルに最も影響している属性についてみると1人群では対人不安、自己没入の順で影響していた。

10. 友人数別にみた関係開始スキルと個人の内的属性との関係

表9には友人数を0人、1人、2～3人、4～5人、6人以上の5群に分けて関係開始スキルと個人の属性との関係、ならびに個人の属性である5つのうちのどの属性が最も関係開始スキルに影響しているかについて示した。自我同一性と関係開始スキルとの関係をみると2～3人群で有意水準5%の正の相関がみられた。自己没入との関係をみると1人群で有意水準1%の正の相関がみられた。共感的配慮との関係をみると0人群で有意水準1%の正の相関があった。孤独感との関係をみると0人群で有意水準1%の正の相関があり、6人以上群で有意水準5%の負の相関が認められた。また対人不安との関係をみると0人群で有意水準1%の負の相関を示した。次に関係開始スキルに最も影響している属性についてみると0人群では対人不安、共感的配慮、孤独感の順で影響していた。また1人群では対人不安、自己没入の順で影響していた。

表7 看護教育背景別にみた個人の内的属性と関係開始スキルとの関係

属 性	n=332					
	大学群		短大群		専修学校群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自我同一性	0.670	0.462	0.174	0.208	0.034	0.041
自己没入	0.635	1.116	0.186	0.213	0.189**	0.209**
共感的配慮	-1.399	-0.692	0.006	0.006	0.076	0.076
孤独感	-0.881	-0.771	-0.131	-0.126	0.027	0.027
対人不安	-0.794	-1.542	-0.257	-0.374	-0.256***	-0.343***

* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

PC: 偏相関係数 (Partial Correlation coefficient)

SP: 標準偏回帰係数 (Standard Partial regression)

表8 兄弟姉妹数別にみた個人の内的属性と関係開始スキルとの関係

属 性	n=332							
	無群		1人群		2人群		3人以上群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自我同一性	0.084	0.110	-0.037	-0.044	-0.015	-0.016	0.226*	0.316*
自己没入	-0.071	-0.076	0.313**	0.347**	0.167	0.179	0.197	0.236
共感的配慮	0.128	0.126	0.112	0.101	-0.044	-0.043	0.049	0.049
孤独感	-0.040	-0.042	0.062	0.059	-0.124	-0.116	-0.021	-0.022
対人不安	0.271	0.411	-0.388***	-0.530***	-0.397***	-0.498***	-0.119	-0.172

* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

PC: 偏相関係数 (Partial Correlation coefficient)

SP: 標準偏回帰係数 (Standard Partial regression)

表9 友人数別にみた個人の内的属性と関係開始スキルとの関係 n=332

属 性	0人群		1人群		2~3人群		4~5人群		6人以上群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自我同一性	-0.534	-0.407	-0.259	-0.248	0.194*	0.253*	0.051	0.067	-0.209	-0.200
自己没入	0.650	0.379	0.519**	0.520**	0.071	0.078	0.195	0.237	0.374	0.501
共感的配慮	0.843**	0.707**	0.206	0.155	0.143	0.142	-0.037	-0.040	-0.138	-0.137
孤独感	0.893**	0.551**	-0.298	-0.238	0.149	0.155	-0.034	-0.035	-0.446*	-0.440*
対人不安	-0.893**	-1.388**	-0.647***	-0.831***	-0.142	-0.198	-0.209	-0.272	-0.369	-0.510

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

PC:偏相関係数(Partial Correlation coefficient)

SP:標準偏回帰係数(Standard Partial regression)

考 察

1. 関係開始スキルと自我同一性の関係

対象全体において、関係開始スキルと自我同一性の間に有意な相関はみられなかった。しかし年齢別の45歳以上の群で正の有意な相関を示した。ユングによれば「中年期の発達段階は若さや能力の減少という事実を受け入れ、自分の人生や目標を振り返って再検討し自分の人生を正しく見直す必要がある。」²⁶⁾ また「内的世界志向への転換をうまく行い、中年の自己を確立し身につけるにつれてより内省的になり自分の経験から得られた知識、常識などの資源をもっと活用し自分の目的をさらに追求できるようになる。」²⁶⁾ と述べている。つまり45歳以上の中年期になると、これからの人生をよりよいものとするため、青年期で確立した自己をもう一度考え直すために、より一層の自己に対する確実性を持つことができるようになるために自己開示ができ、人との関わりもスムーズに行えるようになることからくるものと考えられる。また、経験年数20年以上群で正の有意な相関を示した。猪下によれば「経験年数が増すにつれて、自己実現に関わる自覚が強まり複合してキャリア形成が進む」²⁷⁾ と述べている。20年以上の経験年数の長いものほど一本貫いた自分というものが確立し、自己開示をスムーズに行えるものと考えられる。兄弟数3人以上群で正の有意な相関を示した。「自我同一性があるという感覚は、自分は他者とは異なる独自の存在であり、生育史から一貫した自分らしさの感覚を維持しているという自分についての確信ある体験である。」⁴⁾ このように、人間は他人と自分を比較することによって自己をはっきり

させる。兄弟数が多いほど自分の周りに比較する者が多くいるために自我同一性が確立しやすく、これが関係開始スキルに影響したものと考えられる。

2. 関係開始スキルと自己没入との関係

関係開始スキルと自己没入との関係において仮説では負の相関になることを推定したが、研究結果では正の相関を示した。自己没入が強いということは自分について考えやすく、なかなか止まらないということであり自己注目が強くなると考えられる。カーバーとシャイアーは自己を公的自己と私的自己に分け、「公的自己とは自己の容姿や振る舞いなど他者から観察される側面で、私的自己とは感情・思考など他者が直接観察できない側面である。」²⁸⁾ と述べている。看護職者は多くの患者から注目されるため公的自己が高まり、自分の言動に注意を払い人当たりのよい行動をとろうとする傾向がある。このことが関係開始スキルと正の相関につながったものと考えられる。また、女性群で正の有意な相関がみられた。桜井は「女子は自分が他者からどう思われているかを気にしたり、早くから自分の顔やスタイルを気にして服装や髪型に気を配る。」²⁹⁾ と報告している。また「ぶりっこ」という言葉があるように女性の方が男性よりも相手によく見られたいという希望が強いと考えられる。これらのことから女性の方が公的自己への注意が強くなり、これが関係開始スキルに影響したものと考えられる。45歳以上群で有意な正の相関がみられた。中年期の課題は「生殖期」と呼ばれ、次の世代を担う者の援助や世話をを行い指導していく社会的責任を伴う³⁰⁾。45歳以上の群は後輩の見本となる必要があり、自分の言動に注意を払う。そのため関係開始もスムーズに行うことが

できるものとする。経験年数20年以上群において正の有意な相関を示した。猪下の研究によれば、経験年数の増加や職位の上昇によってキャリア意識が高くなる²⁹⁾と報告している。キャリア意識が高まると、周囲の人からよく見られたい、よく評価されたいという願望が強くなる。さらに経験年数の長い者は経験年数の短い者の見本となる必要がある。そのため公的自己への意識が高まり関係開始スキルに影響したものとする。副師長・主任群においても正の有意な相関がみられた。これも経験年数同様キャリア意識の高まりにより、よく見られたいという希望が強くなること、また上司からの評価と後輩の見本という中間の立場にあるため公的自己も高くなり、人当たりの良い行動をとるため関係開始がスムーズに行えるものとする。次に専修学校群において正の有意な相関がみられた。これは専修学校と大学・短大との教育システムの違いによると考えられる。専修学校では臨床実習において大学・短大よりも患者との関わりを持つ機会を重視される実習であるために、そのような経験を通して対人関係においてどのように振舞えばよいかをよく知っており公的自己の意識も高いと考えられる。そのため人当たりのよい行動をとり、これが関係開始スキルに影響したものとする。友人数1人群において正の有意な相関がみられた。これは友人が1人しかいないとその友人とうまく付き合っていきたいと考えるために人当たりのよい行動をとるようになり、関係開始スキルがよくなったものとする。このように各群における自己没入の高まりは公的自己への注目を高め人当たりのよい行動をとらせるように働くために、それが関係開始スキルを高め、正の相関につながったものとする。

3. 関係開始スキルと孤独感との関係

対象全体において、関係開始スキルと孤独感との間で有意な相関はみられなかった。しかし職種別にみると副師長・主任群において正の有意な相関があった。菊地の研究では「ベテラン看護婦は若い看護婦との意思疎通や同僚との信頼関係に問題を抱えている」³¹⁾と報告している。このことから副師長・主任群では後輩や同僚とのコミュニケーションに問題を抱え、孤独感が強くなると考えら

れる。また副師長・主任というという中間管理職では後輩からの信頼と婦長からの期待との板ばさみにあい、より一層孤独感が強くなるものと考えられる。しかし副師長や主任は後輩をまとめていく必要と責任を負うために孤独感が強いほどそれがもたらすネガティブな面への注意が高まり、自分から話しかけていく。このことが関係開始スキルに影響したものとする。次に友人数0人群において正の有意な相関が見られた。中村は「孤独で不安になれば誰かと一緒にいたくなるし、また、傍らに他者がいれば自分のことについてその人に語りたくなり、自己開示を行うことで心の安定をうることができる。」³²⁾と述べている。このことから友人のいない孤独な者ほど自分から他者に話しかけていき、それが関係開始スキルに影響したものとする。

4. 関係開始スキルと対人不安との関係

対人不安と関係開始スキルとの間で負の有意な相関を示した。デューバルとウィックランドの客体的自覚理論によると「客体的自覚状態におかれると、ある自己の側面が顕著になり、その自己の側面に対して、適切さの基準が明らかになる。そして適切さの基準が明らかになると、その適切さの基準に従って自己評価するようになる。」³³⁾と述べている。しかし現実の自己がこの適切さの基準に達していないため、自己への批判が生じ対人不安が生じると考えられる。看護職のように多くの患者や医師・同僚がまわりに存在していると、他人から見られているという意識が強まり客体的自覚状態が高まる。そのため対人不安が強まり対人関係を避けるようになり、これが関係開始スキルに影響したものとする。女性群で負の有意な相関がみられた。これも男性と女性のいずれかがより対人不安を経験するかは、特定の社会的反応や自己呈示の様式に依存するため一概に判断することはできない。しかし、対人不安感において男性よりも女性の方が高い得点を示し、初対面の場合に関する項目と密接に関係していたことから、現代の女性は男性よりも人とはじめて会話することに不安を感じる事が考えられる³⁴⁾。これらのことから女性の方が対人不安が強く、他人と話すことを避けるようになり、関係開始がスムーズに

行えないことから負の相関になったものと考え、24歳以下の若い年齢群において負の有意な相関が見られた。シュレンカーとリアリィは「対人不安が生じるためにはまず、自己についてのある印象を与えたい（呈示したい）と願っている（動機づけ）必要がある。」³⁶⁾と述べている。24歳以下の若い看護師は先輩からの信頼を得たいという願望が強い。そのため自分に対してよい印象を与えたいという希望が強く対人不安が生じやすく、これが関係開始スキルに影響したものと考え、また、35～44歳群で負の有意な相関が見られた。この時期はひとり立ちするために自分を打ち出していく野心的側面が重要になり、相手からよい印象、よい評価を受けたいと強く願う。そのため自己への注目が強まり、自分がどう見られているか、どう評価されているかを過剰に気にするために人目を避けるようになり、これが関係開始スキルを低下させているものと考えられる。経験年数別では3年以下群で負の有意な相関が見られた。3年以下の経験年数の短い者は先輩からどのように見られているか、どのように評価されているかが気になり自己への注目が高まり、対人不安が生じ対人関係をスムーズに行えないことが関係開始スキルに影響したものと考えられる。また10年以上群において負の有意な相関を示した。10年以上のベテラン看護師ではキャリア意識が高くなる。そのため自分はどうのように評価されているかということに気を配るため自己への注目が高まり、対人不安が強まり関係開始スキルに影響したものと考え、職位別では副師長・主任群で負の相関を示した。副師長・主任になるとキャリア意識が高まり、自分をよく見せたいという願望が強くなる。そのため自分の言動など公的自己への意識が強まり、これが関係開始スキルに影響したものと考え、また看護師群において負の有意な相関が見られた。看護師は同僚だけでなく看護師長や副師長などの上司から常に見られている感覚を覚え、そのために対人関係において不安が生じやすくなかなか上司との会話にスムーズに入っていけず、これが関係開始スキルを低くさせているものと考え、学歴別では専修学校群において負の有意な相関が見られた。専修学校では大学・短大よりも臨床実習

が多く、多くの対人関係の機会を経験している。そのため、人との関係開始が慎重になり、それが対人不安を強め関係開始がなかなかできないことからくる結果と考える。次に友人数0人群、1人群で負の有意な相関が見られた。友人数が少ないと友人を作りたいと考え、自分をよく見せたいと考える。そのため自己への注目が高まり対人不安が生じ、関係開始スキルを低くさせたものと考え、

結 論

人間関係における看護職者の関係開始スキルに影響する個人の属性である自我同一性、自己没入、共感的配慮、孤独感、対人不安等がどのように影響しているかを調べた結果、次のことが明らかになった。

1. 関係開始スキルと自己没入とは相関がみられた。
2. 関係開始スキルと対人不安とは相関があった。
3. 自我同一性と関係開始スキルとは対象全体では相関を示さなかったが年齢別、経験年数別、兄弟姉妹数別、友人数別で相関がみられた。
4. 共感的配慮と関係開始スキルとは対象全体では相関がなかったが、友人数別で相関を示した。
5. 孤独感と関係開始スキルとは対象全体では相関が認められなかったが職位別、友人数別で相関がみられた。
6. 関係開始スキルに最も影響する個人の内的属性は対人不安であり、次いで自己没入であった。以上のことから仮説1, 2, 3, 4, 5は肯定された。

研究成果の活用と限界

看護職者の関係開始スキルを向上させるために、関係開始に影響を与える個人の内的属性を改善する上で、訓練・教育するための資料として本研究成果を活用できるものと考え、しかし、本研究は2つの病院における結果であるため、他の看護職者の集団においても調査すること、男性数が少数であったため、今後は増やしてさらに検討する

ことが今後の課題である。また、本研究に使用した孤独感を測定する尺度においては信頼性係数が低い値を示したため、今後検討していく必要がある。

謝 辞

本研究の調査に御協力下さいました福井県立病院の柿澤イサ子看護部長及び富山市民病院の加藤美智子看護部長をはじめ、看護師の皆様には深謝いたします。

引用文献

- 1) 菊池章夫, 堀毛一也: 社会的スキルの心理学. pp184-191, 川島書店, 東京, 1994.
- 2) 菊池章夫, 堀毛一也: 前掲書1), pp188.
- 3) 中村陽吉: 対人場面の心理学. pp49, 東京大学出版会, 東京, 1983.
- 4) 無藤隆, 高橋恵子, 田島信元 編: 発達心理学入門Ⅱ. pp25, 東京大学出版会, 東京, 1990.
- 5) 丹野義彦, 坂本真士: 自分のところから読む臨床心理学入門. pp32, 東京大学出版会, 東京, 2001.
- 6) 丹野義彦, 坂本真士: 前掲書5), pp34.
- 7) 山岸俊男: 社会心理学のキーワード. pp148, 有斐閣, 東京, 2001.
- 8) 菊池章夫, 堀毛一也: 前掲書1), pp129.
- 9) 中村陽吉: 前掲書3), pp95.
- 10) Mark, Leary: understanding Social Anxiety. 1983. (生和秀敏 訳, 対人不安. pp142, 北大路書房, 京都, 1990.)
- 11) 生和秀敏: 前掲書10), pp143.
- 12) M.アーガイル, M.ヘンダーソン: The Anatomy of Relationships. 1985. (吉森護 訳, 人間関係のルールとスキル. pp90, 北大路書房, 京都, 1992.)
- 13) Jones, W.H., Hobbs, A.S., Hockenbury, D. 1982. Lonliness and social skill deficits. Journal of Personality and Social Psychology, 42, 682-689.
- 14) Spitzberg, B.H., Canary, D.J. 1985 Lonliness and relationally competent communication. Journal of Social and Personal Relationships, 2, 384-402.
- 15) 生和秀敏: 前掲書10), pp4.
- 16) 生和秀敏: 前掲書10), pp129.
- 17) 生和秀敏: 前掲書10), pp140.
- 18) 生和秀敏: 前掲書10), pp9.
- 19) 生和秀敏: 前掲書10), pp45.
- 20) 谷冬彦: 多次元自我同一性尺度. 心理測定尺度集Ⅰ, 山本眞理子編, pp86-90, サイエンス社, 東京, 2001.
- 21) 丹野義彦, 坂本真士: 前掲書, pp33.
- 22) マーク・H・ディヴィス著 菊池章夫 訳: 共感の社会心理学. pp67, 川島書店, 東京, 1999.
- 23) 落合良行: 孤独感の類型判別尺度 (LSO) の作成. 教育心理学研究 31: 332-336, 1983.
- 24) 林洋一, 小川捷之: 対人不安尺度構成の試み〜その2〜, 横浜国立大学保健管理センター年報 2: 19-37, 1982.
- 25) 和田実: 対人有能性に関する研究. 実験社会心理学研究 31(1): 49-59, 1991.
- 26) Jung, C.G: Modern man in search of a soul, 1993.
- 27) 猪下光: 看護職のキャリア・ストレスのモデル分析. 香川医科大学看護学雑誌 3(2): 15-21, 1999.
- 28) 丹野義彦, 坂本真士: 前掲書4), pp169.
- 29) 棚原健次, 中村完, 国吉和子: 社会心理学入門. pp146, 福村出版, 東京, 1997.
- 30) 前掲書4), pp103.
- 31) 菊池昭江: 看護専門職における自立性と職場環境及び職場意識との関係. 看護研究 32(2): 97, 1997.
- 32) 中村陽吉: 前掲書3), pp51.
- 33) 丹野義彦, 坂本真士: 前掲書5), pp167.
- 34) 生和秀敏: 前掲書10), pp178.
- 35) 丹野義彦, 坂本真士: 前掲書5), pp67.

Relationships between nurses' initiation of new relationships and their interpersonal attributions

Keiko YOKODA¹⁾, Daisuke TOMITA²⁾
Chikako HAYASHI³⁾, Shizuko TAKAMA¹⁾

- 1) Department of Fundamental Nursing, School of Nursing, Faculty of Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University
- 2) Kurobe city Hospital
- 3) School of Nursing, National Toyama Hospital

Abstract

The purpose of this study was to examine relationships between nurses' initiation of new relationships of social skills and their internal attributions. A sample consisted of 332 nurses was examined. The instruments used were Initiation of new relationships skill scale of the sub-concepts of social skill scale by Wada, Multidimensional ego identity scale by Tani, Self-preoccupation scale by Sakamoto, Japanese version of Empathy consideration scale of the sub-concepts of Interpersonal Reactivity Index by Davis, Loneliness scale by Ochiai and Negative self-awareness in Interpersonal relationships scale by Hayashi and Ogawa. The scores of self-preoccupation showed partial correlation coefficient with significant level of 1% to those of initiation of new relationships. The scores of negative self-awareness in interpersonal relationships showed partial correlation coefficient with significant level of 0.1% to those of initiation of new relationships. The scores of ego identity showed positively correlation with those of initiation of new relationships in difference of age, experience, brother and sister number and friends' number. The scores of empathy consideration showed positively correlation with those of initiation of new relationships in difference of friends' number. The scores of loneliness showed correlation with those of initiation of new relationships in difference of career ladder and friends' number. It was suggested that nurses' internal attributions related to their initiation of new relationships.

Key words

initiation of new relationships, ego identity, self-preoccupation, loneliness feeling, negative self-awareness in interpersonal relationships